

平成20年3月開催

市町村合併にかかる住民懇談会報告書

開催状況

日 時	会 場	人 数
3月18日(火) 午前10時30分～午前11時30分	4の1会館	23人
3月18日(火) 午後6時30分～午後8時10分	文化センターTOM	78人
3月19日(水) 午後1時30分～午後2時35分	富美住民センター	25人
3月19日(水) 午後6時30分～午後7時45分	コミュニティセンター	36人
3月24日(月) 午前11時00分～午後0時25分	旭農業センター	7人
3月24日(月) 午後7時00分～午後8時45分	開盛住民センター	20人
3日間6会場		189人

上湧別町総務課行政対策係

市町村合併にかかる住民懇談会(4の1 会館)

1. 日 時 平成20年3月18日(火) 午前10時30分～午前11時30分
2. 出席者 岡村自治会長、細川老人クラブ会長ほか21名
原田町長、石田副町長、加藤総務課長、木村総務課長補佐、
鹿野行政対策係主事
3. 結果要旨 司会進行 細川老人クラブ会長

(1) 町長挨拶 原田町長

- ・北海道より提示された佐呂間・湧別・上湧別の3町の枠組みでの合併を基本に考えていたが、佐呂間町が離脱し、残された2町での合併が現実的となった。
- ・行政の効率化を考えると、多くの町での合併が望ましいが、遠軽町に合併の意志はないと聞いている。
- ・財政的には、数年間自立できるが、先々のことを考え、自治体として体力のあるうちに合併し、今後の地方分権や財政問題などの諸問題に備えたい。
- ・合併するか否かではなく、「湧別との合併」について意見を聴きたい。

(2) 現況について、加藤総務課長より資料に沿って説明。

(3) 質疑応答(は町からの回答)

湧別町では、上湧別と湧別の2町の合併に賛成なのか。

1月末から2月にかけて「上湧別との合併」について町民懇談会を開いたが、否定的意見はないと聞いている。

合併後、町名が変わると思うが登記簿の修正はどうなるのか。有料か。

職権により行うので無料。

合併後の町名はどうなるか。

町名や庁舎の位置、議員数等は、法定協議会の中で決定することになる。

合併の決定は、住民投票等によるのか議会の議決によるのか。

最終決定は、町議会での議決による。前回の合併協議の際、湧別町で行った住民投票も議会の前段で行ったもの。

合併後、人口は1万人程度にしかならないが、合併による恩恵はあるのか。

財政的には、次のような措置がある。

5年間、旧2町分の算定で交付税が交付され、その後段階的に1町分となる。合併に関する必要経費が、特別交付税として交付される。
道から合併に伴う事業に対し、最高3千万円の補助金が3年間、2町分交付される。

合併しなかった場合、どうなるのか。

国は、国から地方へ権限移譲することで、国の財政負担を減らしたいと考えており、この受け皿となりうる規模の基礎自治体を求めている。

決定ではないが、合併せずに4～5千人程度の人口の町では、基礎自治体と

して認められず、特例町村の扱いとなることが考えられ、権限移譲が受けられない上、現在実施している町独自の事業・施策が出来なくなることも考えられる。

まずは2町で合併し自治体としての体力をつけ、いつか遠軽町と対等の合併を目指してはどうか。

将来的には、そのようなことになるであろうと考えている。

市町村合併にかかる住民懇談会(文化センターTOM)

1. 日 時 平成20年3月18日(火) 午後6時30分～午後8時10分
2. 出席者 加藤議員、奥谷議員、高田議員他75名
原田町長、石田副町長、牧野教育長、加藤総務課長、
木村総務課長補佐、鹿野行政対策係主事
3. 結果要旨
 - (1) 町長挨拶 原田町長
 - (2) 現況について、加藤総務課長より資料に沿って説明。
 - (3) 質疑応答(は町からの回答、 は再質問、再意見)

前回の合併協議会で道からの職員派遣期間はどのくらいか。また、協議会を立ち上げたことで、どのくらいの費用がかかったのか。今回立ち上げる協議会では、財政難が合併の一要因にあるため、なるべく費用をかけず進めてもらいたい。

道職員の派遣は1年4カ月。前回の協議会の費用は、資料を持ってきていないので正確な数字はわからない。今回協議会を立ち上げるにあたっては、そのような意見も踏まえて検討していきたい。

前回の協議会では、民間人が委員として入り、無責任な立場での発言が多かったのではないかと。今回は行政の立場の人間が中心となって進めてもらいたい。

今後、両町において委員の選任をしていくが、湧別町の人選は当町から意見すべきものではないと考えます。

合併協議会は、民間人が入らなければ成立しない。町職員と議員のみで進めたのでは、合併後ひとつの町に醸成しにくいのでは。

ご意見のとおりだと考えます。

議員は町民の代表であり、民意は十分に入っているのではないかと。

北海道合併構想に湧別・佐呂間・上湧別がひとつの枠組みとなっており、その市町村意見の欄に「構想とは違う組み合わせで」との意向を示している団体が二つあるが、この中には上湧別町は入っているのか。

当初から構想どおり進めたいと意思表示している。

それならば、ここに示されたのは佐呂間と湧別の意見となる。構想と違う組み合わせでやるという意見であれば、その意見を確認するのが先決ではないか。

3町の首長で協議した結果、本年2月に佐呂間は「合併しない」との意思表示をしたため、現在は2町で話を進めたいと考えている。

3月3日の町政執行方針では、合併の相手を湧別とは言っていないが、12日の一般質問では湧別を対象とすると答弁。決定までの期間が短いのでは。

2月に3町の首長で話し合い、佐呂間が合併しないという意思表示をしたため、合併は2町の方向性しか残されておらず、3月3日の時点で、2町での合併という考えはあった。その後、一般質問において「合併相手は湧別か」という具体的な質問が出たため、表明したものである。

湧別町と合併した結果、どうよくなり、どう変わるのか。広域連合ではだめか。

小規模町村は特例町村となり、町民に密接な戸籍等の事務だけが残り、それ以外の事業は実施できなくなる恐れがある。さらに地方分権が進められても、受けることも、国から権限が移譲されることもなくなると考えられる。そのため湧別町と合併し、1万人規模の町となっておくことが最良と考える。

合併しても劇的に素晴らしくなることはない。地方分権で移譲される事務を、受けられる町でいるための合併。何かが良くなるためではなく、今のままの町を維持するための合併と考えてもらいたい。

湧別と上湧別では合併後、人口は1万人程度にしかならないが、それで将来の見通しは立てられるのか。住民と職員のためにも何度も合併して欲しくない。

自立でも数年は大丈夫だが、行政的に町民に迷惑をかけるかもしれない。単独で進めていき、いよいよ合併となったときに、人口も財政状況も芳しくなく吸収合併ということにはしたくない。そのためにも自治体として体力のあるうちに湧別と合併しておきたい。

町で示している資料は「西尾私案」の内容であり、地方分権改革推進委員会では別な意見が出ていると思うが。

色々な意見はあるが、少しでも自治体として体力がある中で合併をしておきたい。「西尾私案」とは言うが、その意見のとおり合併等が進んでいるのが現実。合併や小規模町村の扱いについては、その他にも色々な案、考え方が示されているが、それらを踏まえて進めている。

湧別と合併し、再度合併するときのために備えるという考えに賛成。

湧別では、遠軽を含め、「湧別市」を推進するグループもあると聞くがどうお考えか。

湧別川流域の町村の歴史を考えれば、そういう意見があるのも分かるが、当町としては、まず湧別と2町合併をし、自治体としての体力をつけ、今後の地方分権や財政問題などの諸問題に備えることが一番と考えている。

前回、住民投票によって土壇場で破綻した。湧別町と足並みを揃えて、民意をくみ上げていくのが大切ではないか。前回の破綻がトラウマになっている。

湧別でも、町長の執行方針、町民懇談会において、町長から「上湧別との合併」について話をし、「総論として上湧別とだったら」という話しだと聞いている。ふたたび破綻ということのないように進めて行きたい。

資料にあるが、借金が72億円あり、基金は24億円程度。どのようにして返していくのか。

町の予算書に返済計画を載せているが、各年度分割して計画的に返済していく。

町民の意思確認の方法として、最終的に住民投票などは考えているのか。

今のところ考えていない。発議は町長、議員、町民ともできるが、なるべく住民投票をせず、スムーズに終わらせたい。

前回のように、話が進んでから、住民投票でひっくり返されても困る。先に住民投票をやるべきではないか。

多くの皆さまに説明し、町民の同意を得て、住民投票をせずに進めたい。住民投票の結果は住民の総意ととらえるが、単純に考えれば、上湧別町のままでいたいと考える町民が多いと思う。住民投票に際しては、合併のメリット・デメリットを伝え、今後の国の情勢を理解していただいた上で、苦渋の選択を迫ることとなるが、限られた時間の中では難しい作業と考えている。

合併の是非について、有権者の20分の1の署名およそ95人の署名で発議し、それについて議会の議決を経れば合併は可能なので、わざわざ住民投票を行う必要はないと考える。

合併特例法において、有権者の50分の1の署名があれば、「合併協議会設立」のための請求をすることができる。これが、議会で可決されればそのまま協議会設立、議会で否決もしくは首長が住民投票とするとした場合は、住民投票が実施される。協議会設置の上、議会の議決を経れば最終的に合併となる。住民投票で即ち合併ということにはならない。

市町村合併にかかる住民懇談会(富美住民センター)

1. 日 時 平成20年3月19日(水) 午後1時30分~午後2時35分
2. 出席者 村田議員、高田議員、竹内自治会長ほか22名
原田町長、石田副町長、加藤総務課長、木村総務課長補佐、
鹿野行政対策係主事
3. 結果要旨
 - (1) 町長挨拶 原田町長
 - (2) 現況について、加藤総務課長より資料に沿って説明。
 - (3) 質疑応答(は町からの回答)

湧別町と2町で合併をしても1万人程度にしかならないが、この先大丈夫か。遠軽町と再度合併という話にはならないか。

明確な国のビジョンは分からないが、一度合併をしたところに再合併を勧めはしないとの見解のようだ。管内を3市にと言うことにでもなれば、再合併もあると思うが、今の段階では大丈夫と考えている。

前回、最後に湧別の住民投票で破綻している。今回は大丈夫か。

湧別でも執行方針、懇談等で「上湧別との合併」と発言し、「総論として上湧別とだったら」という話だと聞いている。再度破綻ということのないよう進めたい。

合併後、「負担は大きく、サービスは悪く」ではつらいが、高齢者へのサービス等はどうなるのか。

今後、協議会で話し合うこととなるが、「負担を小さく、サービスは良く」では、町は成り立たなくなる。合併したからといって劇的に良くなることはなく、厳しいものは厳しいと認識して欲しい。

「サービスも同じ、負担も同じ」だったとしても、特例町村とならず、今までの事業が継続でき、地方分権の受け皿となれるならそれで良いのではないか。

町名と本庁舎の位置については、最初に決めるべき事項と思う。

前回も最初に決めようとしていたが、決まらなかった。今回は、最初に決めるよう心して合併に取り組みたいと思う。

町村合併にかかる住民懇談会(コミュニティセンター)

1. 日 時 平成20年3月19日(水) 午後6時30分～午後7時45分
2. 出席者 奥谷議員、高田議員、村田議員、麻植議員、吉田議員他31名
原田町長、石田副町長、牧野教育長、加藤総務課長、
木村総務課長補佐、鹿野行政対策係主事
3. 結果要旨
 - (1) 町長挨拶 原田町長
 - (2) 現況について、加藤総務課長より資料に沿って説明。
 - (3) 質疑応答(は町からの回答)

東京から上湧別にUターンしてきて、水道や福祉関係で、素早い対応をしてもらい安心して住める町だと思っている。合併するとそのような利点がなくなり、説明にある市町村の行政サービスの維持・向上にはならないのではないかと。

財政が悪化すれば、サービスが低下することにもなるかもしれない。自治体としての体力のあるうちに合併し、今の行政サービスの水準を維持したい。

町村合併と行政の効率化の直接的関係を説明してほしい。

国と地方の膨大な借金を返すため、国は、市町村を再編し効率的な予算執行を考えている。また、市町村でも、合併し人口規模を増やすことで効率的な行政を進める必要があり、それが、サービス水準の維持につながると考えている。

前回の合併協議の際には、財政問題が合併の主な要因だった。今回突然、特例町村が要因としてあがっている。国の案にただのそれだけでなく、自治体としてもっと権限移譲を進めるよう要請していくべきではないかと。

自治体として、自治権を、権限移譲をという話は町村会等でも要望している。

特例町村については、旧合併法の中でも議論が進められていた。旧法下では、合併する町への財政措置もあり、主に財政的な問題が論点となっていた。しかし、新法の期限が切れた後、合併新新法は作られないらしいとのことから、西尾私案として出ていた特例町村の話題が再浮上している。

上湧別と湧別の2町合併では人口1万人程度にしかならず、結果的に特例町村になるのではないかと。

特例町村の目安の1万人と言うのは仮の数字であり、決まった数字ではない。また、法的に定められたものではないが、総務省合併推進課長の見解では、同じ人口1万人でも「合併した町」と「合併していない町」の線引きをし、両方を同じ「特例町村」という扱いにはしないとのこと。

2度も3度も合併するのでは、事務的にも財政的にも無駄が多い。湧別町とともに遠軽町と合併するということは考えていないのか。

遠軽町は、合併したばかりで新たな合併を考えられる時期ではないと聞いている。すべての条件を遠軽町に合わせてということなら、合併は可能かもしれない。しかし、今は、いつかあるかもしれない再合併まで自治体としての体力をつけておき、対等な形で合併できるようにしたい。

市町村合併にかかる住民懇談会(旭農業センター)

1. 日 時 平成20年3月24日(月) 午前11時00分～午後0時25分
2. 出席者 姉崎自治会長ほか6名
石田副町長、加藤総務課長、木村総務課長補佐、鹿野行政対策係主事

3. 結果要旨

(1) 挨拶 石田副町長

- ・合併新法の期限が、平成22年3月末で切れるため、新法の期限内で合併したい。当初、道より提示された佐呂間・湧別・上湧別の3町での合併を考えていたが、3首長話し合いの結果、佐呂間町が離脱し、2町だけとなった。
- ・湧別町長も、上湧別町との合併について協議を進めたいとの考えを表明しており、湧別町で実施した説明会でも賛成意見が多いと聞いている。

(2) 現況について、加藤総務課長より資料に沿って説明。

(3) 質疑応答(は町からの回答)

町民の幸せのための合併というが、町民が求めるのは見える形の幸せである。

合併して極端に良くなるということはない。合併しないままでは、小規模町村の扱いなどが現実となった場合、独自の施策はできない。現状を維持するために合併をしたい。

道新では、町村合併のメリットもデメリットもあまりないと掲載されていたが実際はどうか。

目に見える形のメリット・デメリットは表しにくい。新聞等では合併のメリットはないと書かれることが多いが、合併の効果は、2年や3年では出てこない。財政的には、人件費削減の効果が大きいですが、公務員は制度上解雇ができない。そのため、数年かけて退職者不補充を進めることで、財政的な効果はある。

酪農家としては、町の境界を越えて農地の斡旋等が行える点では、メリットはあると考えている。新庁舎を建てるとかという話でなければいいのでは。

特例町村になって独自の施策ができなくなった場合、町に魅力がなくなり、過疎が進むのではないかと懸念している。農業施策においても、町独自の補助等ができなくなり、それが合併しないことのデメリットではないかと考える。

役場職員も退職者不補充のままで進むと、旧上湧別農協のように年齢構成に偏りができるのでは。

先のことを考え、職員の年令バランスを取ることは必要。

湧別町では合併反対の文書が流れているようだが、今も流れているのか。

インターネットでも反対意見があり、湧別町でもそのような文書が配布されている。考え方はいろいろあると思うが、大筋では賛成と聞いている。

湧別町も財政的に良いわけではないと思うが。

湧別町も行政改革を進めてはいるが、数年前と比較すると基金は減っている。財政状況としては当町と同じような状態であり、財政的に良いといえる市町村

はほとんどないと思われる。

特例町村になった場合、町独自の農業施策もできなくなるということか。
特例町村になった場合はできなくなると考えている。

具体的な案や状況が出てこない判断のしようがない。
合併協議会を立ち上げた後、協議会の中で合併後の町について具体的に決めていくことになるので、協議会で決まり次第公表していく考えている。

合併をするのであれば、住民サービスが低下しないように、現在独自で行っている施策を残すよう進めてほしい。

合併するとしたらいつか。
遅くとも平成22年3月までと考えている。

市町村合併にかかる住民懇談会(開盛住民センター)

1. 日 時 平成20年3月24日(月) 午後7時00分～午後8時45分
2. 出席者 高田議員、奥谷議員、久野自治会長ほか17名
原田町長、石田副町長、牧野教育長、加藤総務課長、
木村総務課長補佐、鹿野行政対策係主事
3. 結果要旨
 - (1) 町長挨拶 原田町長
 - (2) 現況について、加藤総務課長より資料に沿って説明。
 - (3) 質疑応答(は町からの回答)

今後の取り組みについて具体的に聞きたい。

人口減少が続き、増えていく要素がない。また、財政的に弱ってから吸収合併という形での合併はしたくない。規模は小さくても2町で合併し、自治体としての体力をつけ、今後の地方分権や財政問題等の諸問題に備えたい。

前回3町での合併では湧別町の住民投票で破綻となった。なぜ遠軽と合併しなかったのか。

遠軽との合併で市がつくれたが、当時町が広くなりすぎ行政の目が届かないとの考えがあったと聞いている。また、道の考えでは、7町合併案と常呂・佐呂間・湧別・上湧別の4町合併案があり、4町案を選んだと思われる。

先のことを考えると遠軽を含め、湧別川流域の町で大きくまとまるほうが、意味があるのでは。湧別と上湧別で遠軽町に入る気はあるか。

遠軽町は合併直後で、新たな合併を考えられる時期ではないと聞いている。道の合併構想でも意向調査の結果、遠軽町は含まれていない。

合併は長い目で見て考えるべきでは。

そのとおりと思う。国の動向を考えると、合併新法が切れた時点で、合併を推進せず、小規模町村の扱いを考えるようだ。いつか更に大きな合併の波が来るかもしれない、小さな枠組みであっても自治体としての体力をつけておきたい。

ほかの懇談会ではどのような意見がでたのか。

あまりたくさんの人には集まってもらえていないが、湧別町との合併に、強い反対意見はなかった。どの会場でも、「今度は大丈夫か」との意見がでていた。

町民は、交付税の関係など詳しく分かっていないが、自立した場合、財政的に厳しいのか。

交付税が人口と面積で算定する方法が変わると、当町のように人口・面積とも小さな町はかなり苦しくなる。しかし、合併新法の期限内に合併すれば、財政措置が三つある。

5年間、旧2町分の算定で交付税が交付され、その後段階的に1町分となる。

合併に関する必要経費が、特別交付税として交付される。
道から合併に伴う事業に対し、最高3千万円の補助金が3年間、2町分交付される。

自立した場合、デメリットは何かあるか。

合併しないままでいくと特例町村となる可能性があり、その場合、町独自の施策は行えなくなる。

町民の生活上、どのようなことが変わるのか。また、町名などはどうなるか。

住民サービスは、2町で内容や負担額などが違う。合併に際し、協議会で内容をすり合わせていくこととなる。また、町名や本庁舎の位置も協議会で決めることとなる。

段階的には、湧別と合併して、その後遠軽と合併するということが。

遠軽との合併は、現実的に決まった話ではなく、遠い将来合併することになるかもしれないという仮定の話である。

昨年TOMであった合併講演会を聴いたが、「国主導で動いているので、合併しないと、権限は渡さず、金は出さず、職員は減り、サービスは低下するよ。自立では無理だよ」という国からの脅しと感じた。

町の自治権について主張しているが、同時に地方交付税などのお金を握るのは国なのでどうにもならない点もある。実際に、岩国市では、米軍基地移転反対の市長から賛成市長に代わると、突然国の補助金が決定した例がある。

湧別町でも合併懇談会が終わっているようだが、湧別町の意見はどうなのか。

3月13日、湧別町長と議長が、上湧別町と湧別町での合併について申し入れに来庁した際、総論としては、「湧別町民の意見は賛成だ」と聞いている。

合併協議会での湧別と上湧別の力関係はどうなのか。

人口は上湧別が多いが、それが即ち力関係とはならない。あくまでも対等の関係で協議会の中で決まっていくと思う。

合併する場合、日程はどのようになるのか。

平成22年3月までが合併の期限と考えている。そう考えると、半年前、平成21年夏頃には調整すべき事項の大方の部分について決めておきたい。そのため、遅くとも今秋くらいには協議会を立ち上げる必要があると考えている。

また、協議会では、合併の日程から2町の事業・施策のすり合せまでが行われる。その後、両町議会の議決を経て、道に申請し、国の承認を得て合併成立となる。

合併のメリット・デメリットについて簡単に表してほしい。

今は漠然としたことしか話せないが、協議会立ち上げ後、少しずつ詳細が決まるので、随時説明したいと考えている。

メリットもデメリットもあるが、合併してバラ色の未来があるわけではない。サービス全般において、今の水準を保つための合併と考えてほしい。

最終的な住民の意思確認として、住民投票は考えているか。

町長提案では、住民投票は考えていない。合併について説明し、町民皆さまの賛同を得て、住民投票までおこなわずに済ませたいと考えている。